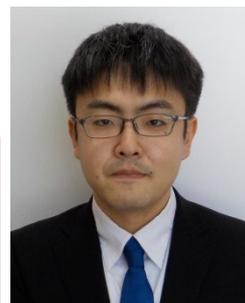


研究タイトル:

## 旧ソ連諸国における国家建設と国民形成



氏名:	竹内 大樹 Oki TAKEUCHI	E-mail:	o.takeuchi@maizuru-ct.ac.jp
職名:	助教	学位:	博士(法学)
所属学会・協会:	日本言語政策学会、「社会体制と法」研究会、ロシア史研究会、日本ロシア語教育学会、ロシア・東欧学会		
キーワード:	国家建設、国民形成、ナショナリズム、憲法、国籍法、言語法、教育法、言語権		
技術相談 提供可能技術:	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロシア語通訳、翻訳、教育</li> <li>・ユーラシア・東欧事情に関する講演、国際交流に関する助言、監修</li> <li>・人権講演会の企画、助言、監修など</li> </ul>		

### 研究内容: 現代ロシアの国家観「国家—文明」をめぐって

私は、「比較法」と「旧ソ連地域研究」という二つの研究分野に軸足を置き、国家建設過程における言語的少数者の統合—言語的少数者に対する言語権保障—に注目してきました。研究遂行過程では、ソ連解体後のロシアにおける国民形成に加えて、ロシア語を母語とする住民を多く抱えており、国家語である基幹民族語とロシア語が対立関係にある近隣諸国—ラトヴィア、ウクライナ—における国民形成を分析してきました。具体的には、第一に、これらの国々の国籍法の立法および改正過程を分析し、ポスト・ソヴィエト期の国家建設過程で、各国の国民概念がどのように変化してきたのか検討しました。第二に、これらの国の言語法と教育法に代表される言語関連立法の立法および改正過程の分析を通じて、各国における言語的少数者に対する言語権保障が、国民概念の変容に応じてどのように変化してきたのか検討しました。(研究業績の詳細は、researchmapをご覧ください。)

目下の研究上の関心は、「2012年以降のロシアによる国家建設が、どのような思想・ロジックに依拠して行われているのか」という点です。ロシアが近年、自国を定義づける際にしばしば言及している「国家—文明(государство-цивилизация)」という概念の内容、そして同概念の思想的背景を明らかにしようとしています。これは、今日も続くロシアによるウクライナ侵攻の本質を理解する上で重要だと考えられます。

### 提供可能な設備・機器:

名称・型番(メーカー)	

エネルギー

環境

材料

生産・製造

計測・制御

情報・通信

防災減災

医療福祉  
バイオ

文化・都市計画